

1. 調査研究活動地域名

島尻郡仲里村

2. 調査研究活動地域の選定理由

本県周辺海域は、豊富なトビイカ資源に恵まれており、沿岸漁業振興策の一つとしてトビイカの大巾な生産増が期待されている。しかし、実際の生産量は昭和50年の306トンから55年の118トンに減少しており、今後のトビイカ漁業の振興を図るには種々の問題点があるものと考えられる。仲里村は、沖縄南部の離島久米島にあるが、ごく近距離のところにトビイカ漁場を有し、トビイカ漁業の盛んな地域である。しかし、同地域のトビイカ生産量は年ごとの変動が激しく、本県のトビイカ漁業の諸問題を集約的に内包するものと考えられる。

3. 県内における選定地域の位置づけ

仲里村においては、主として底魚一本釣り、ひき縄、イカ釣り、さし網等の漁業が営まれており、経営体の94%は3トン未満の漁船が占める典型的な零細漁業地域である。同地域の漁業経営体数の変動はあまり大きくないが、漁業生産量は、年ごとに大きく変動し、しかも減少傾向にある。同地域のトビイカ漁業を振興するうえでの諸問題を明らかにし、その対応策を検討することにより、本県のトビイカ資源の有効利用を促進し、沿岸漁業の振興を図るための波及効果が期待される。

4. 調査研究活動チームの構成

(1) 総括責任者

沖縄県水産試験場 漁業室長 久貝 一成

(2) 研究部門担当者名

沖縄県水産試験場 漁業室 兼浜 安信、喜屋武俊彦、山本 隆司

(3) 普及部門担当者名

沖縄県漁業者センター 専門技術員 当真 嗣誠

(4) 行政部門担当者名

県水産振興課 流通加工係 糸数 正

5. 協力機関名

久米島漁業協同組合、糸満、港川、知念、与那原漁協、仲里村

6. 調査研究活動の目的及び方法

(1) 目的

トビイカ漁業の振興

(2) 方法

- ① 現在の漁法、販路、加工等の状況について現地調査及び関連地域の調査を実施する。また、トビイカ漁業を営む漁業者を追跡調査し、漁場、漁獲量、操業日数及びトビイカ操業時の他の魚種の漁獲状況を把握し、トビイカ漁業経営について明らかにする。